

Information

お知らせ

第16回町田市市民協働フェスティバル

「まちカフェ！」イベント情報 ~11月26日(土)市役所開催編~

11月26日(土)～12月4日(日)、市内各所・オンラインで開催される市民・地域活動の祭典「まちカフェ！」。

会期中は各団体の趣向を凝らした100を越える催しや展示が行われます。

本号では、11月26日(土)に市役所で開催する催しの中から、事前予約が必要なイベントを紹介します。

予約や詳細はQRコードにアクセスし、まちカフェ！公式ホームページで確認してください。



まちカフェ！公式ホームページで

予約イベントの詳細をご覧いただけます。

この機会に気になるイベントを予約してみてください。



トークセッション・相談

市役所2F

□事前予約

輝いて生きるための終活 (ミニ講座&入棺体験)

【日時】①10:30～12:00 ②13:00～14:30

【団体】エンディングセンター

【問合】042-850-1212

来場
特典

まちカフェ！のテーマカラーである「緑色」を身に着けて
来場された方には、記念品をプレゼント！

観る・聴く

市役所3F

無料

□事前予約

市役所3F

1,000円

□事前予約

市役所3F

無料

□事前予約

ハピネスチャレンジ！パラリンピックメダリスト
鹿沼由理恵さんトークショー

【日時】13:30～15:00

【団体】町田市ユニーク協会／子ども市議会「かわせみのお引越し」キャラバン隊
【問合】ohagimitarashidango@gmail.com

映画『夢みる小学校』
をみんなで観よう



市議会議場ギター＆
バイオリンコンサート

【日時】10:30～12:00

【団体】オール町田文化芸術祭プロジェクトチーム
【問合】090-2336-4721

ワークショップ・体験

市役所1F屋内

500円

□事前予約

市役所1F屋内

無料

□事前予約

市役所2F

無料

□事前予約

ミュージカルダンス体験会

【時間】12:45～13:45

【団体】アマタメ企画 【対象】小学生以上
【問合】akinko15@gmail.com

竹とうろうワークショップ
～ともにともす100のあかり

【時間】①10:30～ ②11:30～ ③13:30～

【団体】町田Bambooチーム

【問合】heliport0606.info@gmail.com

視覚障害者がiPhoneを使いこなす方法の体験講習会

【時間】①10:10～12:00 ②14:00～16:00

【団体】ブライントITサポート町田

【問合】info@bismachida.jp

外国人とコミュニケーションするための
「やさしい日本語」講座

【時間】10:30～12:30

【団体】町田やさしい日本語の会
【問合】minako.ara@gmail.com

体験しよう！色彩セラピーで
出会う知らない私

【時間】各回90分 ①10:00～ ②12:00～ ③14:00～

【団体】色彩心理グリーンハートラボ
【問合】044-989-5816 / greenheart1949@gmail.com

世界でたったひとつのオリジナル
紙ひこうきを飛ばそう

【時間】14:00～16:00 【団体】地域活動団体からふい～

【対象】小学生3年までの親子・障がい者と介助者のペア
【問合】colorfii2021@gmail.com

イベントは急遽中止・延期等、内容が変更になる場合があります。最新情報は、まちカフェ！公式ホームページにてご確認ください。リアルイベントは、「東京都新型コロナウイルス感染症の拡大防止チェックシート」に従って開催します。ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。各会場へは、公共交通機関をご利用ください。



町田市地域活動
サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

町田市地域活動サポートオフィス

検索



www.machida-support.or.jp

受付時間 月曜日から金曜日 午前9時から午後6時
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

まちだづくりのコミュニケーション誌

サポートオフィス通信

2022
October

Vol. 32

Now

まちだづくりサロン特別編 講演会開催

協力のテクノロジー

～まちだづくりサロン特別編～

～「違う」を大切に協力できる地域をつくる～

Topics

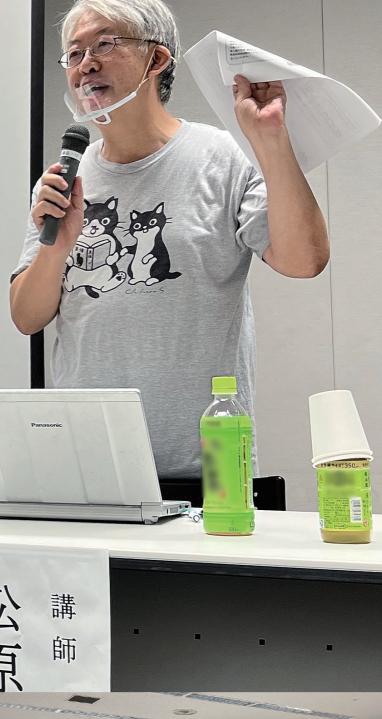
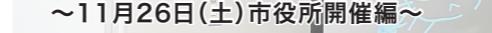
学生に聞いてみた！

若い世代×地域活動の本音とリアル

Information

「まちカフェ！」イベント情報

～11月26日(土)市役所開催編～

松原
講師

Now

近況報告

まちだづくりサロン特別編 講演会

『協力のテクノロジー』

～違うを大切に協力できる地域をつくる～を開催しました

9月10日、ばっば町田の会議室で開催した本講演会では、〈シーズ・市民活動を支える制度をつくる会〉を創設し、NPO法をはじめNPOに関連する法律や制度の創設、改定の中心的役割を担ってきた松原明氏に登壇いただきました。松原氏は2022年4月、共著で『協力のテクノロジー 関係者の相利をはかるマネジメント』を出版。価値観が多様化する現代において「違う」者同士が力を合わせる「協力」について体系的に解説しています。

講演会前半は、地域活動等の事例を交え、「違う」を大切にしながら、「協力関係」を築く技術についての講演。NPOや市民活動は、多者協働のプラットフォーマーとして、地域マネジメントをしていくことが大事な仕事であることもお話しされました。

後半は「サポートオフィススタッフが深掘りする『協力のテクノロジー』徹底解剖！」と題し、スタッフと参加者からの質問に、松原氏がユーモアと事例を交えつつ回答する時間に。講演の時間いっぱいまで質疑応答が続き、閉会後も松原氏への質問や参加者同士の意見交換が続く活気のある講演会となりました。

本講演会の開催レポートをサポートオフィスのHPより
ご覧いただけます。ぜひご一読ください。



講演会で取り上げた共著
『協力のテクノロジー』関係者の相利をはかるマネジメント (学芸出版社)。様々な事例と共に、協力関係を築く方法が具体的に解説されています。

VOICE

● 参加する方々の自分らしさが出せる場所のコーディネーターでいたいと日々思っているので、プラットフォーム運営の具体的なヒントがつかめました。

● 協力関係を築くには、まず相手のニーズ、希望を聞くことが大事ということを再確認しました。これから心がけていきます。

Topics

特集

学生に聞いてみた!

若い世代×地域活動の本音とリアル

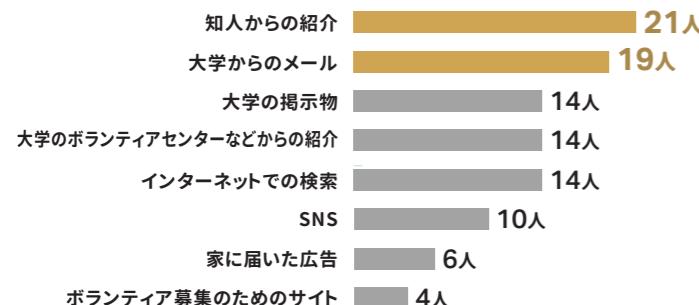
地域活動団体の皆さんから「団体の活性化を進めるために多世代、特に学生や若い世代の意見や力を取り入れていきたい」という声が多く寄せられます。若い世代に気持ちよく、そして積極的に活動やイベント等に参加してもらうために、団体としてはどんな準備や気構えが必要でしょうか?そこで、今夏サポートオフィスでインターンシップ(就業体験)をしてくれた3人の学生が、大学生47人に市民・地域活動に関するアンケートを実施し、本特集記事を制作しました。今回の特集では、そこから見えてきた地域活動に対する学生の本音や、学生のリアルな状況をお届けします。若い世代と共に活動を進めるヒントにしてください。

DATA 01

学生が地域活動の募集情報を知るきっかけ



Q NPO活動や市民・地域活動、ボランティア、インターンシップなどの募集情報を知るきっかけは何でしたか?(複数回答)



データからわかること

募集情報を知る最初のきっかけは、知人からの紹介や大学からのメール・掲示物など「人を介した情報」が多い結果に。そこで興味を持った学生が、活動をしてみたい団体を具体的に探し、連絡を取る流れになります。

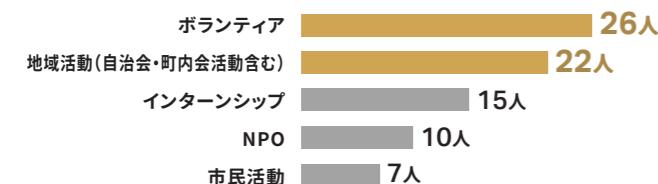
インターンシップ生からのアドバイス

大学を通して募集をかけると、たくさんの学生さんに知ってもらえる可能性があります。その募集に「友達との参加歓迎」等の言葉を添えると、学生も参加しやすいだけでなく、さらに多くの学生に知ってもらえるきっかけになると思います。

DATA 02

大学生の地域活動への参加実態

Q NPO、市民・地域活動、ボランティア、インターンシップの活動に参加したことがありますか?(複数回答)



データからわかること

多くの学生は「地域活動」、「ボランティア」に参加している傾向があることが見えてきました。そして参加した学生のうち3人に1人が地域活動やボランティア情報をSNSやインターネットで調べたことがありますと回答しました。

インターンシップ生からのアドバイス

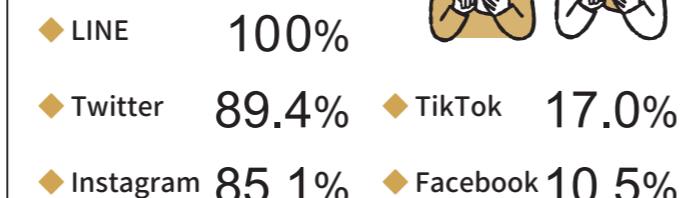
学生は大学のキャリアセンターから「時間のある1~2年生のうちに、ボランティアや地域活動、企業へのインターンシップなどの有意義な活動をするように」と言われています。団体からの情報発信は、「ボランティア」「大学生の地域活動」等の学生が探しやすい言葉を多用して、どんどん発信していくことがおすすめです。

DATA 03

大学生が活用しているSNSの実態



Q 普段使っているSNSは何ですか?(複数回答)



データからわかること

LINEは全員が日常的に使用しており、次にTwitter、Instagramの順に使用している人が多い結果に。地域活動をしている団体さんの多くが活用しているFacebookを使用している学生が1割程度と少ない印象的です。

インターンシップ生からのアドバイス

多くの学生はメールや電話を使う機会が少ないため、団体との連絡方法がメールや電話だけだとタイムリーなコミュニケーションを取りづらいイメージがあります。団体の活動に参加した学生や若い世代との連絡手段はLINEがおすすめです。

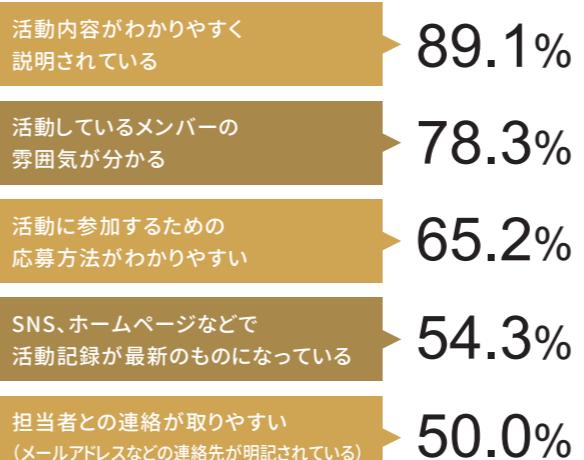
DATA 04

団体活動に参加しやすくなるための学生の本音



Q

あなたが地域活動やボランティアに参加する場合、どのような要素があれば参加しやすい・もしくは参加したくなりますか?(複数回答)



データからわかること

活動内容をわかりやすく説明することは必須ですが、次点で「活動しているメンバーの雰囲気が分かる」が選ばれており、一緒に活動する仲間となるメンバーの人となりが分かることが学生の安心につながることがデータから見て取れます。

インターンシップ生からのアドバイス

この問い合わせのフリーアンサーには、「参加することで得られる具体的なメリットが提示されている」、「活動に学びがある」、「活動場所・活動目的が明確」等も挙げられていました。どの項目も具体的に書いてあるといいですね。

「SNS、ホームページなどで活動記録が最新のものになっている」の項目にも半数以上の学生が手を挙げたことからもわかる通り、学生は情報発信の頻度やその内容で「きちんと活動をしている活気のある団体かどうか」を判断する傾向があります。

アンケート調査を終えて

インターンシップ座談会

「学生や若い世代が地域活動にもっと参加するために、団体が今できること」をテーマにインターンシップに参加してくれた3人の学生が話し合いました。

アンケート調査を実施してみた感想

猪俣:【DATA01】の「募集情報を知るきっかけ」について聞いたアンケート結果を見て、「知人からの紹介」が多いことに驚きました。やはり口コミの力ってあるんだなと再確認しました。

津野:最初から企業のインターンシップに1人で行くのは不安なので、企業より自分の生活に身近な地域活動・NPOのほうが参加するハードルが低く応募しました。特に1~2年生はまだ自分の進む分野が決まってない場合も多いので、視野を広げたいという気持ちもあります。就職活動のときの話題にもなるし、全く知らない人とコミュニケーションを取る練習になるのも魅力でした。

今回インターン先に市民活動、NPOを選んだ理由

猪俣:時間的に余裕のあるタイミング(長期休み等)もあるので、有意義に過ごしたいという思いがあるし、就職活動時に学生時代に力を入れたことについても聞かれるので、そのための話題作りをしたいという思いがあり参加しました。

三浦:私はNPO等での活動は、就職活動のためはもちろん、自分の経験を積める場所だと考えて、応募しました。

津野:最初から企業のインターンシップに1人で行くのは不安なので、企業より自分の生活に身近な地域活動・NPOのほうが参加するハードルが低く応募しました。特に1~2年生はまだ自分の進む分野が決まってない場合も多いので、視野を広げたいという気持ちもあります。就職活動のときの話題にもなるし、全く知らない人とコミュニケーションを取る練習になるのも魅力でした。

三浦:団体の方は、「学生さんは忙しいのに頼んでいいかしら?」と迷う場面もあると聞きますが、学生にとって学びになることであれば、思ってないので、今後は30~40代をメンバーに取り込むとより活性化すると感じました。

猪俣:町田ってパワーのある人が多いと感じました。多くの活動団体のメンバーはリタイア後に地域活動を楽しんでいる方が多いように思つたので、今後は30~40代をメンバーに取り込むとより活性化すると感じました。

猪俣・津野:そうそう(うなずく)。

本特集には掲載しきれなかったその他のアンケート調査結果や座談会の様子を、サポートオフィスのホームページでご紹介しています。団体活動のヒントとしてぜひお読みください。

